

食の複合施設開業

橿原市今井町

築150年長屋を改修

古民家再生業務を手掛ける「株式会社narrative」(奈良市西城戸町・大久保泰佑代表取締役)は1日、重要伝統的建造物群保存地区に指定されている橿原市今井町にある築約150年の長屋を改修し、食の複合施設「narawashi nagaya」をオープンした。ミシュラン一つ星を獲得した堀田大樹さん監修のデザートカフェや、地元の名品を扱うショップなど、奈良の食文化発信や地域のにぎわいづくりを目指す。



大久保さん(右)と堀田さん=後ろの施設が長屋を改修してオープンした「narawashi nagaya」

同施設は地域に眠る古民家と地域の食文化を交錯させ、唯一無二の食の物語を紡ぐ同社のプロジェクトの一環で、生産者と消費者が直接つながる「共利共生の場」の役割を担うとしている。

2軒4戸の長屋を改修。その一つに南都銀行とナラティブが運営するECサイト「ならわしストア」初の実店舗が出店。豊澤酒造や木谷ワインなど奈良の地酒を中心に、県内名産品などを取り扱う。

隣のエリアでは、奈良の果実を使ったデザートのカースと紅茶のペアリングを提供するデザートカフェ「ドゥルケコムニコ」が出店する。カフェの営業時間以外には、地域と生産者、国内外の料理人がコラボレーションする、奈良の食材を使ったポップアップレストランを開催。また料理教室やイベントなどで利用できるレンタルキッチンなどに活用する。

施設にはテナント部分もあり、奈良の新たな食の歴史を作り上げていく入居者を募集している。店舗で使用する地元野菜などについて、同社が持つ生産者らとのルートの提供も行う。

施設の裏に芝生エリアを設け、一部を除き施設で購入したデザートやドリン

生産者や消費者らつなぐ場に

クなどの飲食が可能。また、地域住民らが立ち寄り交流できる場として解放する。

オープンを前に同社は5月30日、報道関係者らを招き内覧会を開催。施設の説明の他、堀田さんがデザートカフェで提供する奈良の季節の果実や、県内の牧場から届いた牛乳などを使ったコースの1つを、参加者らの目の前で作り披露した。

内覧会で大久保さんは「地元の食材を使い、地域ならではの食を表現することを心掛け、地元の人に愛される施設になればと思っています。そのうえで、中南和地区の観光はまだまだ盛り上げる必要があると思っています。観光を盛り上げる象徴的な一つの施設にしていければ」と抱負を述べた。

堀田さんは「世界中から奈良の食を目指して来てもらえるような施設にしたい。デザートのカースを提供する店は他にないと思うので、そういったところも楽しんでもらえたら」と語った。



ECサイト「ならわしストア」初の実店舗では、奈良の地酒を中心に県内名産品などを取り扱う



▲ 完成したデザートコースで提供する5品と、紅茶のペアリング

◀ 内覧会で堀田さんがデザートコースの1つを目の前で作って披露



デザートカフェやポップアップレストランなどで使用するオープンキッチン



施設の裏に設けられた芝生エリア



築約150年の長屋の歴史を感じられるように、改修でほぼ手をつけなかった土壁も



プロ仕様のレンタルキッチンスペース